

拝啓

記録的猛暑になった今年の夏が過ぎ去り、また、全国で自然災害による被害が発生しております。

水野先生、ペアレンツキャンプの先生方におかれましてはお元気でお過ごしでしょうか。

この度、1年10ヶ月の支援を卒業することとなりました。先生方には、いつも親身になり指導していただいたこと、本当に感謝しております。

思えば、5年生を2週間過ぎた頃、その時は突然にきました。宿題にイライラしていた息子に私はちゃんとした対応をしませんでした。そのことに突然息子はキレ、「学校なんかやめる！2度といかん！もう何もしたくない！死にたいんや！」と、泣きながら全ての鉛筆を折ってしまいました。

4年生の終わり頃から、習い事を行き渋ることがあったのですが、まさかこんな事を言うなんて、夢にも思っていませんでした。元々友達も多く、どちらか言えば活発な方で、いつも家族を笑顔にしてくれる息子だったので、信じられませんでした。

担任の先生も心配してくれたのですが、「死にたい」という言葉が辛すぎ、無理に行かせることに躊躇してしまいました。どうしていいかわからず、ただ不登校についてネットで検索したり、関連本を読むことしかできませんでした。

なんとか運動会には参加したものの、6月からは完全に不登校になりました。

両親でスクールカウンセラーに週1で相談に行きましたが、「夏休みゆっくり休んで、2学期からの登校を目指しましょう。」と言われ、ただ見守ることしかできませんでした。

次第に息子は昼夜逆転になっていき、お風呂にも入らず、1日中ゲームとネットをする毎日となりました。1人ではつまらないので、私が夜中に起こされ、ゲームの相手をさせられました。私は子供の前では悲しい顔を見せてはいけない、元気になったら学校に行ってくれる、との思いで、それに付き合いました。しかし、親の気持ちとは裏腹に今度は物欲が激しくなっていました。今回だけと約束しても、欲しいものが手に入ってしまうとすぐに次の物を欲しがるようになり、それが叶わないと物にあたったりするようになりました。また、お金を探しに夜中近所を歩き回ることもありました。

息子から笑顔が消え、様子も段々と変わっていきました。

2学期になっても息子が動き出すことはありませんでした。私達も精神的に辛くなっていました。私は、『9月末の自然学校に行けたら、それをきっかけに学校に行けるんじゃないか』と息子の気持ちも考えず、自然学校に行かせることばかり考えていました。

息子も行きたい気持ちもあったのですが、動き出せませんでした。私は半年間我慢していた気持ちがあふれ、息子の前で大号泣しました。息子は部屋に行ってしまい、それから2日間部屋から出てきませんでした。私は気持ちが切れてしまい、『もうどうなってもいい・・・』と感じてしまいました。家庭内では誰もしゃべらず、バラバラでした。

そんな私達を見て、夫が「ここに相談してみようか？」と、1冊の本を見せてくれました。

それが、水野先生の『無理して学校へいなくていい、は本当か』という著書でした。夫はもっと前に先生の本を読み、私にも訪問カウンセリングについて提案してくれていたのですが、私がなかなか踏み切れずにいたのです。そして、藁をもすがる思いでメールをしました。

初回の電話では、水野先生が親身に話を聞いてくださり、「息子さんは学校に戻る力のある子ですよ。」と、言っていただきました。そして「丁度、数日後に親の会があるので、参加してみませんか。そこで話を聞いて支援をうけるか、どうか決められたらいかがでしょうか」と、おっしゃっていただき、夫婦で参加することになりました。親の会では支援を卒業された方、支援を受けられている方が参加され、それぞれのお話を聞くことができました。特に卒業された方のお話は私達に希望を与えてくれました。夫婦で話し合い、先生方を信じて支援を受けることを決めました。

まず家庭教育支援では、PCM を学びました。私には驚きが多く、いかに今までの子育てが過干渉で、メシテイが多く、息子に考えさせることをしてこなかったことに気付かされました。週3回の佐藤先生による電話カウンセリングでは、その時々の問題に対して、的確な指導を受けることができ、とても心の支えになりました。また、日々の家庭ノートでも、具体的な指導をいただきました。私たちが学び変わっていくことで、息子にも変化がみられるようになりました。

年明けから、辻先生、高田先生の訪問カウンセリングが始まりました。最初、緊張していた息子もすぐに先生達に心を開いていきました。

復学準備からは鈴木先生にも訪問していただき、復学に向けていつも息子の気持ちに寄り添い、不安なことがないか気にかけてくださいました。復学日が決まり、担任の先生からクラスの友達に発表していただいた時、クラス中に歓声と拍手が起きたと聞いて、私は涙があふれました。やはり、息子は学校にもどるべきだった、ペアレンツキャンプの先生方を信じて本当に良かったと、改めて思いました。

復学の日を迎えました。不登校の期間が長かった分、復学日前夜は眠れないようでしたが、辻先生、高田先生に支えられ無事に登校することができました。何ヶ月かぶりに聞いた「いってきます。」とその時の息子の姿は忘れられないものになりました。

登校3日目の朝、息子は不安を口にしましたが、辻先生が朝から電話で対応してくださり、息子は気持ちを切り替えて登校することができました。あの時、家庭だけの対応では登校させることは難しかったと思います。それからは、病欠以外では欠席することなく継続登校できました。登校したからこそ出てくる問題にも、佐藤先生にご指導いただき息子を支えることができました。高田先生には、いつも息子の近くでサポートし続けてくださいました。

お陰様で、6年生はすべての行事にも参加でき、みんなと一緒に卒業することができました。私たちも乗り越え成長した息子の姿を見ることができ本当に嬉しかったです。

そんな息子もこの春から中学生になり、勉強に部活に大変そうですが息子なりに中学校生活を頑張っています。

2年前の息子は顔も青白く、お風呂にも入らず1日中パジャマ姿で、洗濯物ありませんでした。昼夜逆転になり、家族とも顔をあわす時間

も少なく、家の中にいても存在がないようでした。

けれど今の息子は誰よりも日焼けし、誰よりも早く登校し、誰よりもたくさんの真っ黒に汚れた洗濯物を持って帰ってきます。毎日、それを手洗いするたび「俺は、今、頑張ってるで！」と言っているような気がします。あの辛い日々があったからこそ、何気ない毎日が大切なんだと実感しています。

これからも乗り越えていかなくてはいけない事があると思いますが、ご支援いただいた事を思い出し、子供を信じ見守っていこうと思います。本当にありがとうございました。

最後になりますが、先生方の益々のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げます。

敬具

平成30年9月8日